

に朝す。故に草肥え水甘く、從て野性に富む。是を著勒都斯谷間と稱し、吐爾扈特族の游牧場たり。

## 沿革

此の地漢の焉耆國とす、王莽の建國中(紀元十一年)叛いて都護但欽を殺す。天鳳二年(紀元十三年)五威將王駿、兵を率ゐて西域に出づ、焉耆詐り降りて駿を殺す。校尉郭欽後れて至り其の老弱を屠る。明帝の永平十六年(七十年)復た都護を置く。同十八年焉耆王、舜及び子忠、漢の喪に乗じ、都護陳睦を殺し、尉犁、危須と共に漢を拒む。和帝の永元六年(九十年)都護班超既に西域を定め、龜茲、鄯善等八國の兵を發して之を討ち、焉耆王廣、並に尉犁王汎を斬り、焉耆の左候元孟を立て、王と爲す。尉犁、危須、山國亦皆更めて王を立つ。安帝の時(百十年)西域再び叛く、延光二年(百二十年)班勇討て諸國を定む。唯だ元孟、尉犁、危須と降らず。順帝の永建二年(百二十七年)班勇進んで其境に至るや、元孟遂に其子を遣して入貢せり。

北魏の太武太平眞君七年(三百八十七年)焉耆王龍尸鳩卑、險を恃んで魏の使を殺す。萬度歸に詔して之を討たしむ。度歸焉耆の界に入り、進んで員渠に向ふ。尸卑鳩の軍潰えて山中に走る。是に於て諸戎皆降り、尸卑鳩遂に龜茲に投ず。周の保定四